

旬味創菜 良作

しゅんみそうさい りょうさく



日本酒・焼酎をお供に
冬場の主役「ラゲ三昧」

宴会シーズン突入の冬場を迎える主役は、てっさ・っちり・唐揚げ…など毎朝仕入れる新鮮なフグを使った逸品揃い。その上、鴨やスッポンなどの鍋コースも。珍しい銘柄も揃う日本酒や焼酎をお供に据え、今宵の宴も盛り上がりは必至。

■京都市北区紫野泉堂町24-2
☎075・495・0055
◎17:00～翌1:00/不定休



CF!スタッフおすすめ
妙に気になるこのお店

Calon
カロン

洛中に吹いた新たな風
サロン行脚モ二で終点



10月16日、サロン激戦区に新しい風が吹いた。カウンセリング重視&オリジナルのトリートメントで、髪もあなたの要望もしっかりケア。自慢のエステで気軽にイメチェンも。不本意だったあなたのサロン巡りも「カロン」で決着。

■京都市中京区六角場馬場東八ノ
大黒町66-2
☎075・972・0825
◎11:00～20:00
(縮毛矯正～19:00)
土日祝10:00～19:00
(縮毛矯正～18:00)
毎週月曜、第1・3火休



キャラクターデザイナー

フジイミツグ

MITSUGU FUJII

【プロフィール】 1962年京都市伏見区生まれ。高校中退後の'83年、宇治市内の部品試作工場に就職。'97年より独学でCGを始め、'98年に15年間勤めた会社を退職。現在は、オリジナルキャラクターの「ダニーくん」を軸に、個展、壁画制作、グッズ制作などを幅広く展開中。

京TIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 118th person

工場勤めの日々が背中を押して 36歳で発進したアートへの挑戦



粘土作品は、フジさんの原点とも言うべき表現方法。独学でCGを始める前から粘土で怪獣などを作りながら、創造の欲求を満たしていたそう。現在は木のおもちゃ、絵本出版、CGでの映画制作などの企画を幅広く展開中。



「ダニーくん」をはじめとするキャラクターを自分の手で立体化しているペーパークラフトは、フジさんが部品試作工場で培った図面を読み取る能力が生かされている。台紙は伊からダウンロードできるタイプもあり



HPから単立していた「ダニーくん」ファミリー、「色使いや表情に味がある」と業界人に見初められることが多いそう。一般のファンも急増中で、HPを見た青森県の小学生から届いたファンレターをフジさんは大切に持ち歩いている

Information
●ZAPP FACTORY
Tel&Fax 075-604-5939
zaop@dannykun.com
http://www.dannykun.com/

怒っているような困っているような「ダニーくん」のものの憂げな表情は、生みの親であるフジさんの「あの頃」の姿ではなかろうか。高校を中退して20歳から働き始めた部品工場での日々。特異な技術も求められる仕事だけに職人的な誇りもあった。しかし、工業機械と向かい合ったまま無機質に過ぎていく時間が彼を苦しめた。「自分の人生はこのまま終わるんやろうなあって絶望しながらも、まだ足掻いてみたいっていう欲望もあったんです。でも、どう足掻けばいいかわからなかったから毎日「あかんあ〜」って機械や家族に向かって呟くばかりで…。そんな思いが頭をもたげ始めたのは勤続10年を過ぎた頃。30歳をまたぎ、守るべき家族もいた。だが、「何かを残さなアカン」の心の声をたよりに、深夜0時から3時までは読書や粘土細工などに没頭する「自分のための時間」を設けていた。

暗中模索の彼にヒントを与えたのは、意外にも工場に導入されたCADだった。練習がてらにCG制作ソフトで描いたゾウのいきいきとした姿に、「ひょっとして才能あるんちゃうん?」。絵など一度も学んだことなかった彼が初めて感じた確信に近い自信。早速、100万円を投じてパソコン機材を購入した彼は、仕事と並行して自身のHP制作に取り組んだ。「ダニーくん」は、その過程で生まれたキャラクターである。「ダニーくん」という相棒を連れて売り込みにも積極的に出かけたが、無名の新人に聞かれる門戸はごくわずか。門前払いや屈辱的な出来事も数え上げればキリがない。それでも地元の人雑誌の表紙や単発のCG制作の仕事を得て世に発信できた時の喜びは、工場の仕事とはまったく違う達成感をもたらした。

15年間勤めた工場に押し寄せたリストラの波も彼にとっては好機到来か。「家族には見捨てられてしまし、先も不安やけど、やっと自分が作ったものを評価してもらえる仕事ができるようになったことが幸せやった」。きっと多くのものを無くしたはずなのに、今の彼の表情はととても晴れやかだ。それは「ダニーくん」を介して「フジイミツグ」の存在が浮き彫りになる喜びである。「自分はここにいる」とキャラクターたちが代弁してくれるのだ。'04年夏にはJUGIA三条本店の壁画制作を手掛けるなど、彼の活躍の場はCGにとどまることなく多面的に広がっている。「そのうち、僕は世界のフジイになりますよ」。そんな台詞も夢想家の口癖のように聞かれない。一縷の希望を糧に生まれ変わった彼が掴み始めている確かな手ごたえなのだ。